

バラカでの帰国 JICA 海外協力隊員最終報告会での挨拶(4月8日)

本日は、最終報告会に大使館より特別に参加をさせて頂きありがとうございます。時田絢子隊員は2024年4月より2年間、バラカ教師研修センターに派遣され、管轄区のバラカにある小学校でエクスプレシブ・アートの授業の指導にあたられました。本日の最終報告会では、数多くの示唆と、試行錯誤、困難をマラウイ教員とともに乗り越えたエピソードが紹介され、大変感銘を受けました。

真面目でプロフェッショナルな教員である時田隊員は、様々な事情から試験に合格できなかった児童と共に涙を流し、背景にある社会的問題を掘り下げ、解決策を真剣に追求されました。カウンターパートの先生方の協力を得て、子供たちの前向きな気持ちをさらに引き出す様々な工夫をされましたが、本日は、そうした時田隊員の努力と成果が先生方に高く評価されたことを先生方の発言から知りました。「チムウেমウェ・ノングウェザ」(幸せの意味)という地元の愛称があったことは、本当の地元の方々から愛されていた証左に他なりません。教育局長が指摘されたように、時田隊員が去った後も、同隊員の指導モデルが子供たちにさらなるインパクトを与え続けることを願っています。

時田隊員は、バラカで学んだことを今後のキャリアで最大限に活用したいと発言されましたが、人生の中で最も貴重な2年間であったことを、後で振り返って気づくこともあるかと思えます。提言は今後の JICA のプロジェクトにおいて参考にさせていただきます。

最後になりましたが、時田隊員を受け入れ、支えて頂いた先生方、バラカ行政区の職員、コミュニティの関係者に心より御礼を申し上げます。日本とマラウイは、時田隊員のような JICA 海外協力隊員がこれまでに世界で最も多く派遣されている国であり、マラウイ中で、人と人との絆が築かれてきていることを大変ありがたいことと思っております。どうもありがとうございました。

(注：バラカは、首都リロングウェから南方200キロにあるナカラ回廊沿いの街)